



関西学院 将来構想の全体像

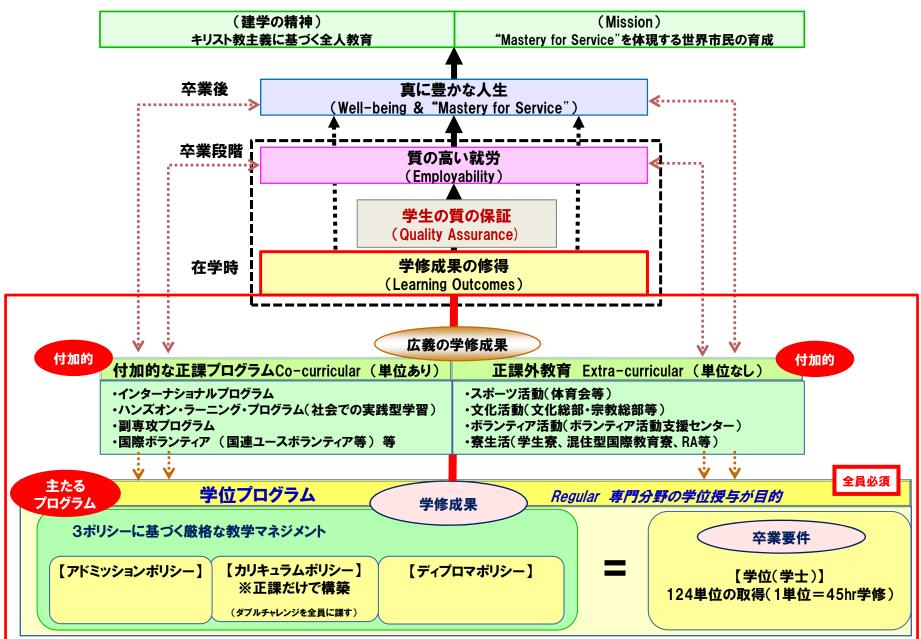


1. 学士課程

社会や世界に貢献して「真に豊かな人生」を送るための基盤を創る



1-(1) 学修成果の修得、学生の質の保証、質の高い就労





(3) カリキュラムの基本構造の改革

長期戦略の 冊子より

「Kwanseiコンピテンシー」を身に付ける基盤教育の確立

全ての関学生が学部の区別なく卒業段階で共通して身に付けておく べき知識・能力・資質を「Kwanseiコンピテンシー」として定め、 その修得のためキリスト教、スタディスキル、言語、ダブルチャレ ンジ※、数理・データサイエンス等の科目を基盤教育として全学生が 学ぶ仕組みを検討する。

- ※所属学部の学びに加え、留学やハンズオン・ラーニング(社会での実践型学習) などに挑戦する独自の教育システム
 - ・「卒業時調査」「入学時調査」等で「Kwansei コンピテンシー」の獲得に関して分析段階



____ 1-(1) 「Kwansei コンピテンシー」の策定

関西学院は、キリスト教主義に基づく全人教育によって「"Mastery for Service"を体現する 世界市民」を育成することを使命としています。その実現に向けて、すべての学生が卒業時に 学部の区別なく共通に身に付けるべき知識・能力・資質を「Kwanseiコンピテンシー」と定め、 これを大学の教育に通底するものとして位置づけます。

「Kwanseiコンピテンシー」は、各学部の教育課程やそれを補完する全学科目等の「正課教 育」だけでなく、クラブでのスポーツ・文化・芸術活動、ボランティア活動、寮生活等の「正 課外教育」、さらには友人関係、教員・職員との交流、キャンパスの豊かな自然も含めた大学 の多様な「環境」によっても育まれます。

(知識/Knowledge)

- ●幅広い知識・深い専門性
- ●多様性への理解

(資質/Quality of Character)

- ●困難を乗り越える粘り強さ
- ●よりよい社会に変革する情熱
- ●誠実さと品位

(能力/Skills)

- ●論理的な思考力
- ●主体的に行動する力
- ●生涯にわたって学び続ける力
- ●豊かな人間関係を築く力
- ●対立する価値を調整する力

関西学院は、幼稚園から大学・大学院までの教育を通じて、この学院に学ぶすべての者が これらのコンピテンシーを段階的に身に付け、高めていくことをめざします。



SGU 構想の5つの柱



♪ 教育OSの刷新「ダブルチャレンジ制度」



協定に基づく海外派遣学生数日本一



[▶] 国連・国際機関等へのゲートウェイ創設



▶ 国際通用性のある質保証システム構築

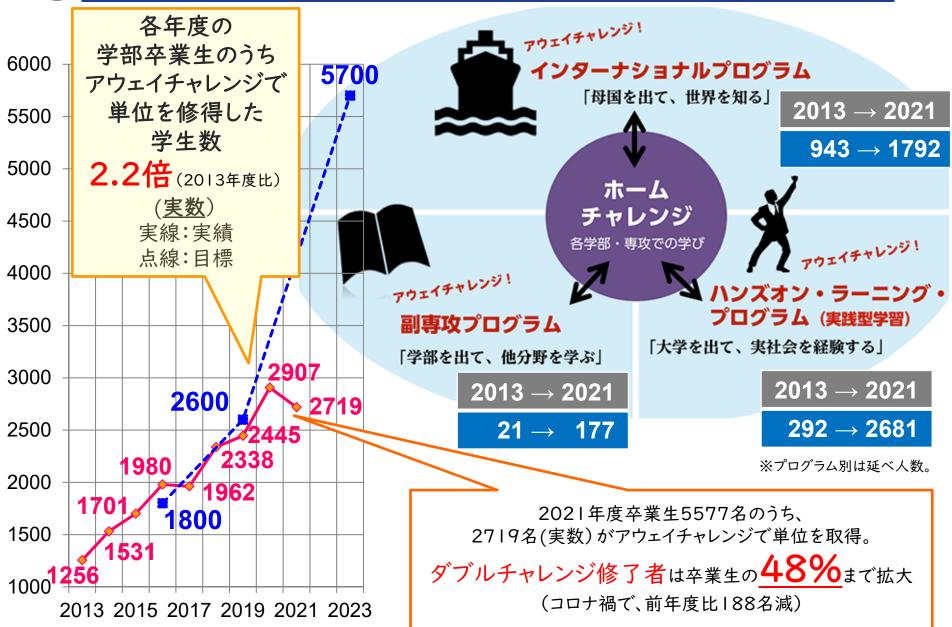


がバナンス改革による総合的マネジメント実現



1-(6) 全学生が挑む「ダブルチャレンジ制度」

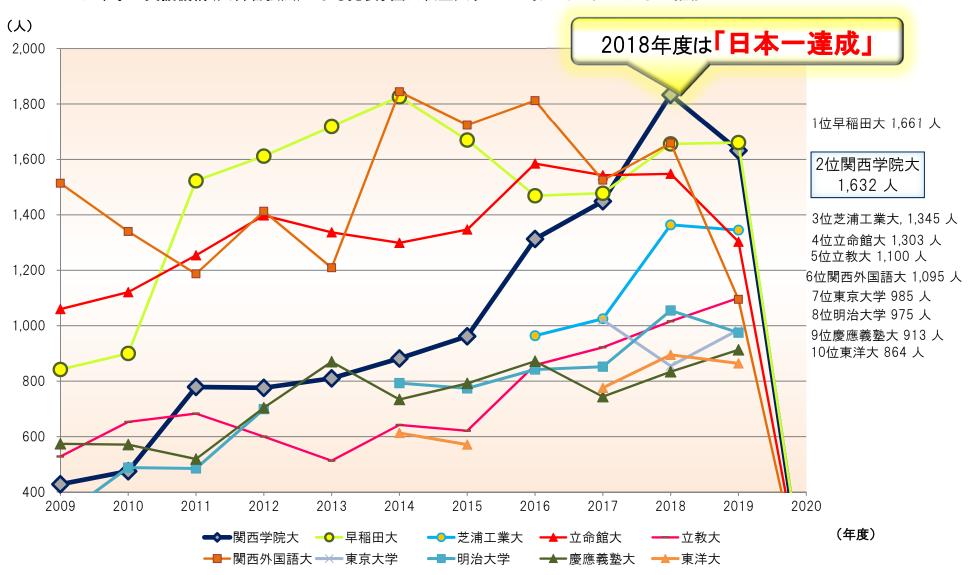
2021 年度





1-(6) 協定等に基づく日本人学生派遣数の多い大学

日本学生支援機構(文科省独法)による発表。国公私立大すべてにおける上位10大学の推移





№ 1-(6) オンラインによる国際教育

広義のOnline Learning Program

・既存プログラムのオンライン転換 (外国語研修、講義科目等)

Virtual Exchange (VE)

本学の定義

COIL

- ・オンラインによる「学生間交流・共 修 |
- ・<u>授業計画の概ね30%以上の交流・共</u> 修の設定が要件
- ・VEのうち大学間で<u>シラバスを共同</u> <u>開発し、授業を共同運営</u>するハイレ ベル型

オンライン「融合(fusion)」科目を全学的に拡充を強化

- ◆ 2021年度は各学部・研究科でも開発・提供
- ◆ 派遣プログラムだけでなく、海外学生を対象とした受入プログラムも拡充



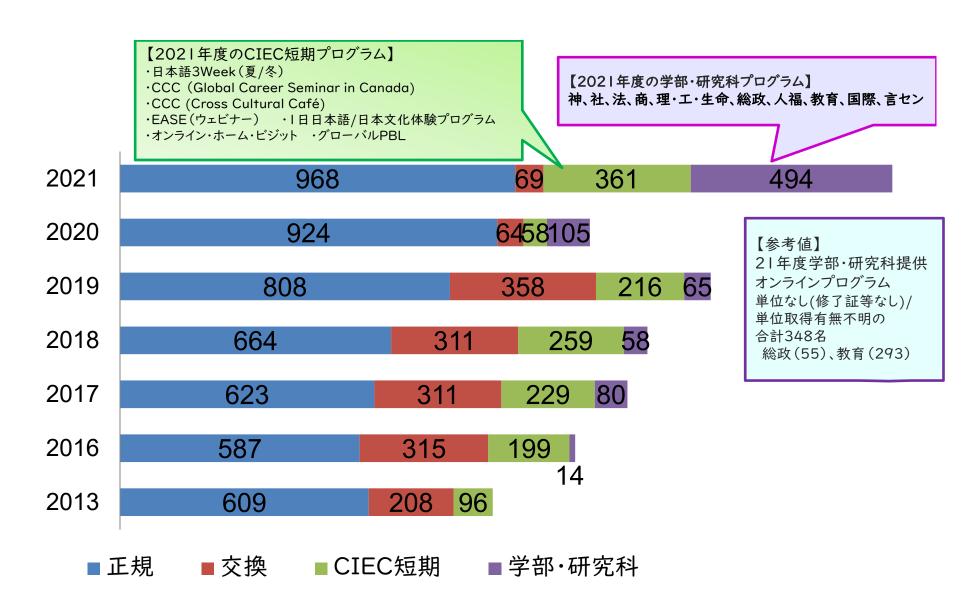
(6) 2021年度オンラインプログラム

2021 年度

プログラム 国・協定校				
CIEC	渡航代替型	交換留学(オンラインのみ)	13ヵ国 26協定校	18
		外国語研修		312
		国際学生セミナー・フィールドワーク等		259
		その他		1
	COIL·VE等の科目型		3ヵ国 3協定校	59
	小計			649
学部	渡航代替型	9学部、国連・外交統括センター	21ヵ国* 13協定校	187
	COIL·VE等の科目型	6学部、言語教育研究センター	10ヵ国 10協定校· 4機関	141
	小計			328
総計				



1-(6) 留学生受入:プログラム別受入数



1-(15) 国際教育寮:有光寮の供用開始(2022年3月)

2021 年度

グローバルコンピテンシーを涵養

世界各国からの外国人留学生と日本人学生が共同生活を通し、文化・習慣等の相違を乗り越えながら、相互理解やコミュニケーションを深める



有光寮の入寮状況 8 I + 2(身障者等対応)室

	外国 / 网兴 +	正規	14人		
2022	外国人留学生	交換	受入停止		
春	日本人学生	RA	3人		
		一般	13人		
	外国人留学生	正規	14人		
2022		交換	47人予定		
秋	日本人学生	RA	7人		
		一般	13人		

レジデント・アシスタント 配 置

国際的な生活環境の中で、寮生へのピアサポートや寮生のリーダー役を担うレジデント・アシスタント(RA)を配置。RAの活動を通し、グローバルリーダーを育成する。

多様な国際教育·交流 プログラムを提供

国際交流イベントや国際教育プログラムを実施し、他の寮生やKG生にも機会を提供し、有光寮を中心に据えた「キャンパスの内なる国際化」を推進する。

レジデンスセンター開設

有光寮を含めた大学寮(10寮)の、 運営管理の効率化や教育機能等の 施策を担うため2022年4月開設。

- ○第 | フェーズ (2022年度~2023年度)
 - →国際連携機構に設置
- ○第2フェーズ(2024年度以降)
- →設置先を2023年度までに決定



🌙 1-(5)「柔軟な学位プログラム」の検討

長期戦略の

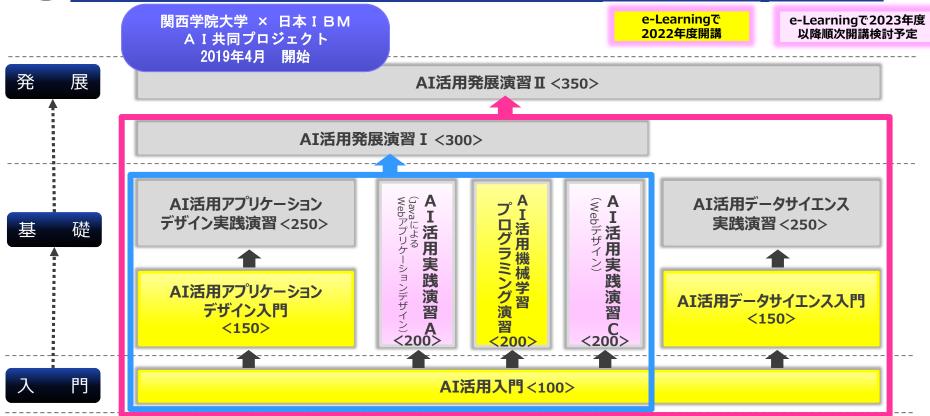
Society5. 0に対応した人材輩出の仕組みの検討

20年後の社会では、AIの発達や人口減少によって、産業構 造や人材需要が大きく変化すると予想されるため、既存の専 門分野の統廃合、新しい分野での開設など学位プログラムを 柔軟に改変できる仕組みを検討する。



1-(3) AI活用人材育成プログラムカリキュラム

2021 年度



主な教授陣



巳波 弘佳 理工学部教授(学長補佐)

本学と日本IBMとのAI共同プロジェクトの統括。 研究分野は情報科学。研究対象は、AIをはじめ、情報科学の理論研究から様々なシステムの実用化まで幅広い。



西野 均 共通教育センター教授

日本IBM研究開発部門にて先進技術を活用した新規ビジネス開発部長を歴任。



1-(3) 各科目の申し込み・履修状況

「AI活用入門」科目の申込・履修状況

	2021春	2021秋	2022春
A-活用入門	2,071名	1,218名	2,600名

*2021年春学期よりオンライン、のため定員を撤廃

全10科目修了者:9名 (経済·商·総政 各1名、理工6名)

全10科目の履修状況(2022年度春学期)

科目名	キャンパス	定員	履修人数
AI活用入門	V-leaning	_	2,600
Al活用データサイエンス入門	V-leaning	_	347
Al活用アプリケーションデザイン入門	V-leaning	_	481
AI活用実践演習A (JavaによるWebアプリケーションデザイン)	上ケ原	50	30
Al活用機械学習プログラミング演習	V-learning	_	152
AI活用実践演習C(Webデザイン)	上ケ原	50	36
Al活用アプリケーションデザイン 実践演習	上ケ原, 三田	50	16
Al活用データサイエンス実践演習 Ⅱ	上ケ原, 三田	50	22
Al活用発展演習 I	上ケ原	50	14
Al活用発展演習 Ⅱ	上ケ原	30	3

合計3,701人が履修



🎝 1-(3) V-Learningを構成する要素

【バーチャルラーニングとは】

多様なデジタル教材、コミュニケーションプラットフォーム、チャットボットなど活用 した、トータルな学習体験ができる、高度なe-learning



















(3) オンライン認証の仕組み

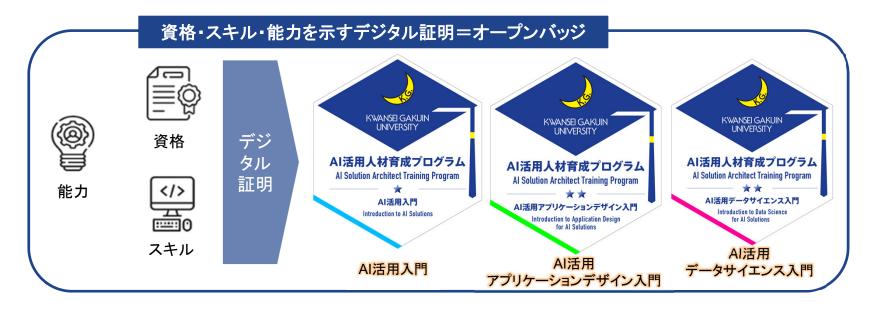
なりすまし防止、不正防止のための仕組みを導入。





1-(3) オープンバッジ(デジタル修了証)の授与

オープンバッジはブロックチェーン技術で保証された国際標準規格のデジタル修了証で、 欧州など世界の高等教育界で活用の動きが始まっている。



特徴

01

国際標準規格



世界的な技術標準規格
「IMS Global Learning Consortium」
に準拠し発行

02

改ざん防止



ブロックチェーン技術を取り入れ、 偽造・改ざんが困難で、 信頼のおける新たな学習・資格証明書 03

海外での普及



多数の海外大学やグローバル企業などで、 利用が進んでいる 年間2400万個が世界中の企業・公的機関

年間2400万個が世界中の企業・公的機関、 資格試験団体、研修機関、大学・学校等から発行



1-(3) AI活用人材育成プログラムの外部販売実績





2022年5月時点

先進取り組みとして紹介・認定

経団連「Society5.0時代の学びII ~EdTechを通じた自律的な学びへ ~」でEdTech活用事例として紹介 文部科学省「数理・データサイエンス・ AI教育プログラム認定制度 (リテラシーレベル)」に認定







♥文科省助成制度に採択(2021年度4500万円補助)

「DX等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業」

Society5.0に適応し 成長し続ける企業

DX推進人材

兵庫県 |||

兵庫工業会

日本IBM (プログラム開発支援)

県内企業 の振興 中小企業の振興 (400社加盟) • AI導入先進企業

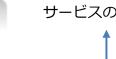


企業

デジタルトランス フォーメーション

ビジネスモデル/ サービスの変革 AI・データサイエンスの知識を有し、さらにAIアプリを開発・活用してビジネス現場で課題発見・解決できる人材

課題テーマ 提供



デジタライゼーション

- チャットボット導入
- 業務プロセスの デジタル化 等

デジタイゼーション

- ペーパーレス
- 在宅勤務 等



就業者

関西学院大学(プログラムの開発・運営責任)

AIアプリの開発・活用による課題解決スキル向上プログラム

◆課題解決演習◆

「AIアプリを活用した課題解決型演習」

(対面および双方向オンライン:40時間) 関系発見し、AIアプロ関系をグループで

企業や自治体の課題を発見し、AIアプリ開発をグループで行い、プロジェクトマネジメントを含む課題解決力を身につける。

◆ AIリテラシー◆

「AI活用入門」 (完全オンライン:22時間)

基礎的なITスキル、データ解析スキル、AI活用スキル、プログラミングスキルを身につける。



1-(4) KSCの学部再編·新設·活性化(7-(3)関連)

2021 年度

関西学院大学は2021年度、理工学部を改組・発展させ、理学部、工学部、生命環境学部、建築学部の4学部を新設した。これにより、神戸三田キャンパス(KSC)は、従来の2学部体制から、新設4学部と総合政策学部の5学部体制へと変わり、さらに質の高い充実した教育・研究を実現。

2学部から5学部へ



理学部

数理科学科 物理·宇宙学科 化学科

NEW

工学部

物質工学課程 電気電子応用工学課程 情報工学課程 知能·機械工学課程

NEW

2019年現在 **2学部** 理工学部

総合政策学部

2021年4月 5学部

生命環境学部

生物科学科 生命医科学科 環境応用化学科

NEW

建築学部

建築学科

NEW



総合政策学科 メディア情報学科 都市政策学科 国際政策学科





1-(4) KSCコンセプト "Be a Borderless Innovator."

1. 地球規模課題に 革新を起こす探究

"Sustainable Energy"の一大研究拠点を形成

2. 国境を越えた学び

海外学修を含む国際プログラムを大幅に拡充

教育・研究 4つの特長

3. 文系理系や学問分野の 境界を越えた学び

分野横断型の教育システムを確立

4. 大学の枠を越えて 実社会で起業する学び

アントレプレナー育成プログラムの創設

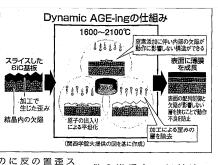


1. "Sustainable Energy" の一大研究拠点を形成

く2021年3月1日(月)オンライン記者発表会 開催>

関西学院大学は豊田通商株式会社と共同で、"欠陥ゼロ"の6インチSiC基板を実現する <mark>新的プロセス技術を開発</mark>しました。次世代パワー半導体材料であるSiC基板は、急速に 電動化が進む世界の自動車産業等で大きな需要が見込まれており、<mark>将来の脱炭素社会</mark> に資する材料です。





高温 で原子配列整える

S i C基板欠陥の無害化技術

日刊産業新聞20210304



1. "Sustainable Energy" に関する学長指定研究

2021 年度

■研究課題

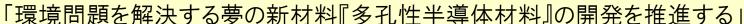
『持続可能な社会に向けた革新的エネルギー材料・システムに関する研究』

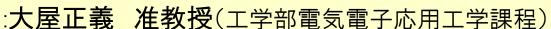
■研究メンバー

研究代表者:吉川浩史 教授(工学部物質工学課程)

「温室効果ガス削減の鍵となる、より高性能な二次電池の応用開発に取り組む」

研究分担者:田中大輔 教授(理学部化学科)





「超電導機器の開発を通して、持続可能な脱炭素社会の実現を目指す」















研究協力者:大谷 昇 教授(工学部電気電子応用工学課程) 尾崎壽紀 准教授(工学部電気電子応用工学課程)

~エネルギーを蓄え、運ぶ~



2. 国境を越えた学び

学部の専門分野に即した海外学修科目(PBL=Project-based Learning、フィールドワーク、実習、インターンシップ等)を大幅に拡充し、学生たちが世界各地で社会的課題に各国の学生らとともに取り組む国際プログラムを充実します。 教育・研究

4つの特長

□ 海外理工学プログラム

- 一理学部·工学部·生命環境学部·建築学部生対象
- 一夏・春季休暇を利用して、専門的知識を英語で学ぶ
- English for Science & Technology:カリフォルニア大学ディビス校
- NTCU Summer Program: 台湾 国立交通大学
- Geoscience Program: 台湾 国立台湾師範大学
- Introduction to Scientific Diving:インドネシア ディポネゴロ大学
- Coral & Forest Study in Tropical Area:インドネシア ウダヤナ大学

ロフィールドワークプログラム

- 一総合政策学部生対象
- 一希望者が「全員」留学可能なプログラム
- 台湾フィールドワーク:台湾 国立成功大学
- フィリピンフィールドワーク:フィリピン ヌエヴァ・ヴィスカヤ州立大学

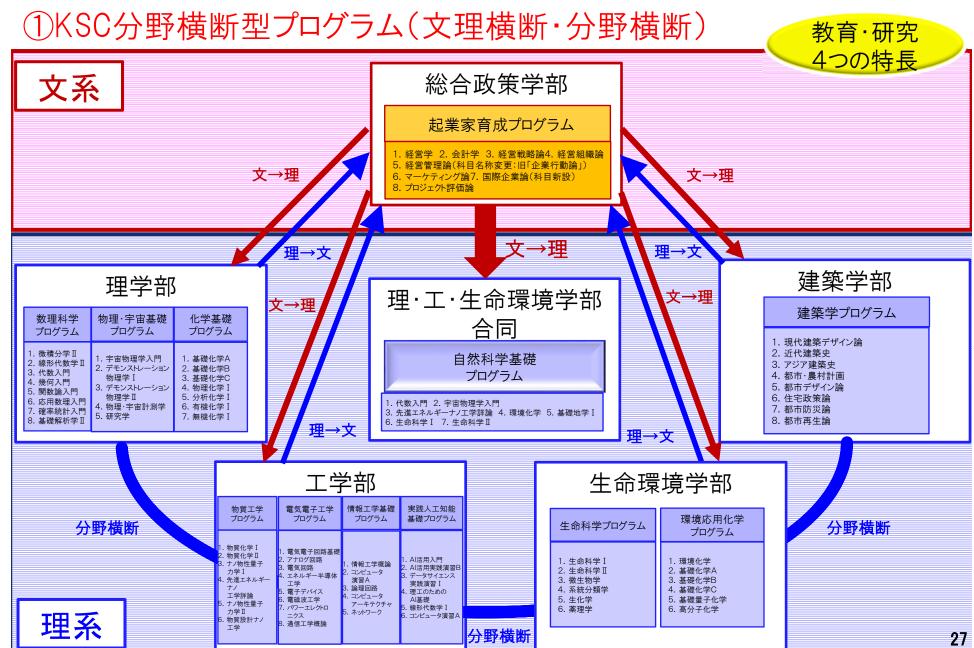
ロ共通プログラム

- 国連ユースボランティア
- グローバル人材・企業体感プログラム in シリコンバレー
- ソノマ州立大学英語研修&フィールドワーク

2021年度 渡航は全て 中止 (一部オンライン にて実施)



💪 3. 文系理系や学問分野の境界を越えた学び(1)





3. 文系理系や学問分野の境界を越えた学び(2)

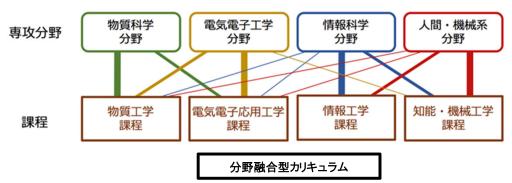
② KSC総合教育科目-「SDGs実践入門」

教育・研究4つの特長

総合政策学部開講の科目に理系4学部(理学部、工学部、生命環境学部、建築学部)の教員が加わり、KSC5学部の教員・学生が文理の両面からSDGsの目標達成をめざして、ビジネスやNPOなどのソーシャル・イノベーションの理論と実践を学びます。若手事業家らの集まりであるNPO「グローバル・シェイパーズ」の関西地区から講師が参加します。ダボス会議の議長を務めた総合政策学部同窓の坂野晶氏も同NPOのメンバーです。

③ 工学部一「課程制」

- 隣接分野のマルチプル・メジャー(複専攻)
- 分野融合型カリキュラム





④ 総合政策学部・建築学部のメジャー・マイナー制度

- -総合政策学部生の建築学マイナー制度(建築士プログラム=48~60単位)
- -建築学部生の総合政策学マイナー制度(20単位程度)

⑤ 総合政策学部ーレイト・スペシャライゼーション

4つの学科(総合政策、メディア情報、都市政策、国際政策)は取組む課題や学問的アプローチの点で、互いに関連しあっています。そのため、1年次は学科の枠にとらわれない学びを展開。2年次に学科を選択します。



4. アントレプレナー育成プログラムの創設

KSC全体での「総合的な起業家育成プログラム」

教育·研究 4つの特長

- 1. 正課科目による展開
 - ①「ベンチャー起業家講座」(理学部開講)②「ベンチャービジネス演習」(総合政策学部開講)
 - ③「起業家育成プログラム(理系学生対象)」(総合政策学部によるKSC分野横断科目群)
 - ④「AI活用人材育成プログラム」(全学開講)
- 2. 正課外プログラム 2017年度から実施しているものを理系学生向けにアレンジ。
 - ●「KG Start-up Academy for KSC」(Wilf 社:2022年春開講)
- 3. ビジネスピッチコンテスト
 - ①Kwansei Gakuin PITCH CONTEST

本学出身の起業家らの前で、自らのビジネスプランについてピッチ(短めのプレゼンテーション)を行い、フィードバックを受けるコンテスト



2 Hult Prize On Campus

"学生のノーベル賞"と称される、世界の学生による起業アイデアのビジネスコンテスト



- 4. KGOB"エンジェル"からの起業支援
- ●起業後株式上場した経営者らが「エンジェル投資家」として<u>約30億円の資金提供</u>による支援を予定
- 5. KSCベンチャーラボ(仮称)の創設
- 学生と企業・起業家・自治体等が交流するインキュベーション機能をもった施設を検討中。



KSCのさらなる活性化に向けて、以下のような環境の整備を検討・推進している。

Camping Campus

アウトドア用品ブランド 「snow peak」との包括協定締結



インキュベーション施設 &学生寮建設計画

2025年春供用開始をめざして 検討中

KSC新棟建設計画

2022年秋供用開始をめざして 2022年8月竣工

三田駅前再開発構想

三田市と連携しながら、 JR三田駅前再開発構想へ 参画をめざして検討中





本施設は、本学と兵庫県・三田市、地元企業等との産学官民連携によって起業家 を育成するインキュベーション施設と学生寮の複合施設で、地域の方々も利用できる 商業施設を併設し、外構・広場を住民の憩いの場とすることなども検討しています。

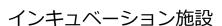
関西学院大学 神戸三田キャンパス (KSC)

2025年春に供用開始予定





学生寮(4棟、300人収容)

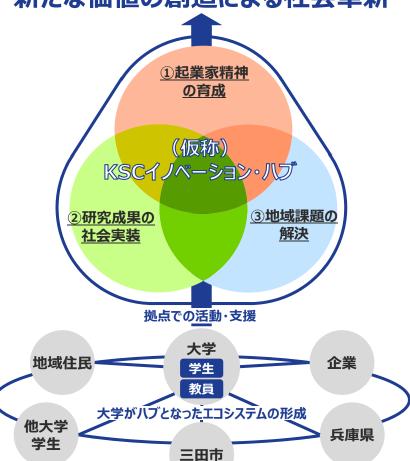


7-(2) インキュベーション施設のコンセプト

2021 年度

<u>コンセプト)</u>関西学院大学の教育・研究活動を核として、自治体(兵庫県・三田市)、企業、学校、住民等が集い、交流・協働しながら以下の事項に取り組むことで、地方創生に資する社会変革の実践拠点となる。

新たな価値の創造による社会革新



1 起業家の育成:社会課題を解決するための 「起業」を多角的に支援する

学生やここに集う人々が、さまざまな社会課題に向き合い、連携・協力しながらその解決に取り組み、実践としての「起業」を実現する。そのために必要な理論と実践を学ぶ「教育」、ネットワークを築く交流の「場」、事業化に挑戦する「機会」を提供する。

2 研究成果の社会実装:大学で創出された「知」を 起業に結び付ける

大学で創出された研究成果を基に、教員・学生、起業家、金融機関、VC等が有機的につながり、アイディアの醸成や社会実装に向けた試行・チャレンジを繰り返す「共創の場」を形成することで新規ビジネスに結び付ける。

3 地域課題の解決:対話をもとに、「地域力」の 向上に貢献する

住民、自治体、学生、教員、企業等が、各々の目線で生活上の身近な課題を共有し、対話しながら解決する力を高め合うことで、「地域力」の向上と「まちづくり」に貢献する。



🔏 7-(2) "Camping Campus"ーsnow peakと連携協定

- アウトドア用品ブランド「SNOW Peak」との包括協定を締結(2020年6月17日) 〈連携事業〉
 - ◆ キャンパス内でのキャンプを通じた「新たな学び」の創造
 - ◆ 共同研究の推進
 - ◆ SDGsの推進による社会貢献

学生団体「CAMP×US(キャンパス)」が中心となって取り組んでいます!

第1回プレ・キャンプ(2019.10.5~6) 第2回プレ・キャンプ(2020.2.5~6) 「1dayキャンプ」焚火トーク(2020.12.14~16) 合計54名参加 焚火トーク(2021.11.27~28) 合計40名参加 本格カリー(2022.4.23.24、5.14.15) 合計140名参加

合計15名参加 合計 30名参加







7-(2) 産学連携による 年間18.6万本のペットボトル削減









共同開発によるオリジナル・マイボトル



SUSTAINABLE GOALS

オリジナル・マイボトルを持参すると多彩な飲料を無料で提供



- ■理系学生と企業がPBL形式で議論できる場 『BIZCLASS』を新たに展開
 - ・理系の学びを活かしたキャリアをより具体化
 - ・社会で活躍するためのビジネスマインドを涵養





- ■snow peakと学生団体「CAMP×US」が 共同で開発し、推進も学生主導で進める。
- ■KSCの学生だけが購入できる。
- snow peakが永久保証

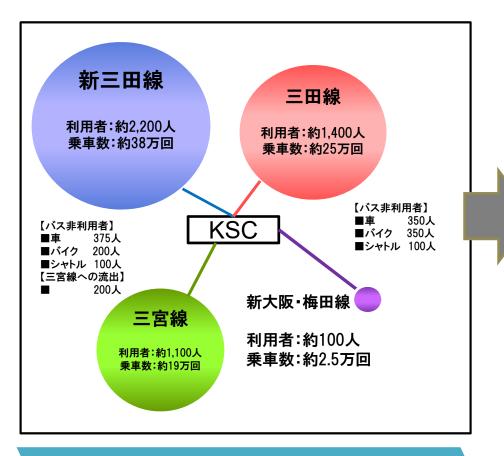


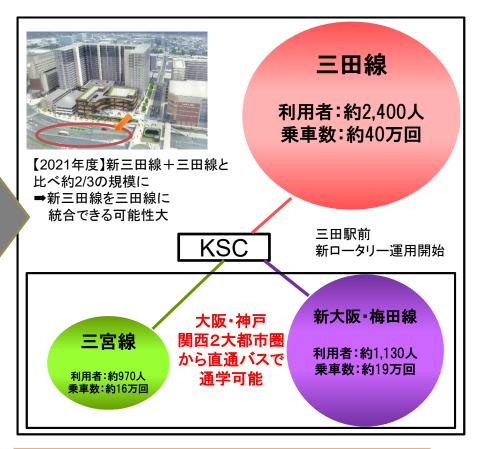
日経ウーマノミクス2021シンポジウム SDG s 座談会発表コンテスト 「CAMP×US(キャンパス)」住友電気工業最優秀賞受賞



7-(2) KSCアクセスのバス路線に新戦略

- ①JRは三田駅からのバス路線へ集約⇒三田市の駅前再開発と連動
- ②新大阪駅・大阪梅田駅から直通・座席指定で50分の路線を拡充





第1フェーズ

<2022年度>

- ■「新大阪・梅田線」への新補助金導入、バス便数増便
- ■神姫バスによるプレミア 5%削減相当額の補填による補助金設定
- ■「三宮線」「三田線」「新三田線」補助金全体の 在り方を検討
- ■三田市と三田駅前ロータリー拡張に向けた交渉・確約(2025年度供用開始)

第3フェーズ

<2025年度以降>

- ■三田市内からKSCへのアクセス拠点を三田駅 に一本化「新三田線」を「三田線」に集約
- ■「新大阪・梅田」「三田」「三宮」からのアクセス3拠点化実現。 【ご参考】
- 三田駅前Cブロック商業施設 2025年度完成予定

4 1-(8) 大学競技スポーツ局(KGAD)の創設

2021 年度

TOPICS / NEWS ABOUT KGAD



FACILITY GUIDE STUDENT SUPPORT

2021.4.1

KGAD (関西学院大学競技スポーツ局)始動!



KGADが2021年4月1日に発足 加盟は14競技、19チーム+学生本部 (2022年3月末時点)

2021年4月21日記者会見



↓ 1-(8) KGADの目的と施策

KGADは、競技スポーツおよび関連する活動を通じて・・・Kwanseiコンピテンシーに掲げる「知識」、「能力」、「資質」を修得し、・・・「"Mastery for Service"を体現する世界市民」の育成を実現することを目的とする。

主たる取組内容

施策案

安全·健康

講習会の開催、データ化 学生ATの育成・AT会議、等 指導者招聘のための新たな援助金制度 を創設(人件費半額を大学が支援)

安心·健全

啓蒙·研修会等啓蒙活動 指導教育、透明化、等

学業両立

AE制度拡充(学業トレーナー制度) キャリアデザイン支援、等

競技力向上

指導者育成・援助、活動環境の充実、 ST配置、等

社会貢献 競技の普及 一般学生や地域とのコラボ企画 企業連携、施設設置、等

広報 ブランド WEBによる動画配信、一体感の醸成、 外部資金の調達 学生が主体的に取り組む

競技を超越して共有連携

活動を社会に公開

パートナーシップ(各組織との連携)



#6

→ 1-(8) KGAD企画広報チーム設立

関西学院大学スポーツの魅力発信を通じて、地域のファン創出、スポンサーの確 保、スポーツを通じた社会貢献活動の創造をめざす。

MGスポーツ株式会社の協力を得ながら活動

2021年度参加学生:69名(内、体育会以外19名)

※加盟団体・体育会への所属有無を問わず、多様な学生が協力

SPORTS の開拓・展開を行う。

MBSグループのスポーツ マネジメントを行う企業で 主にスポーツコンテンツ

"KG SPORTS STARS"

学生が企画、制作、配信するKGスポーツの魅力を 掘り下げるライブ配信番組(2021年10月~)



KWANSEI GA







🌛 7-(1) スパイラルアップの道程

社会的評価 (ブランド) 財政の健全性・安全性の 確保 の向上 学生獲得力の向上 OUTCOME (偏差値の上昇) 教育プログラムの魅力向上 学生支援サービスの質向よ 教員体制の増強 OUTPUT (ST比の改善) **INPUT** 学費改定 (財源の確保) RESOURCE

これら3つをセットした総合的な<u>「学部教育改革施策」</u>を2019年度より公募開始。



7-(1) 法学部の取組み

1. 特修コースを「司法特修のみ」から「法曹・企業法務・公務の3分野」へ拡充

特修コース(選抜制3分野ー括募集:定員50名) ※2年生春スタート

法曹分野

(旧司法特修コース)

裁判官・弁護士・検察官をめざす 最短5年で司法試験合格が可能

専任教員2名増員 (刑法・知的財産法) 指導体制を強化

企業法務分野

<u>「法曹養成連携プログラム」</u> ロースクール連携カリキュラム₎

公務分野

企業経営、契約、知的財産管理等多方面で企業を支える人材へ

企業の法務部門担当者による ケーススタディ授業

> 法学研究科において高度専門 職業人をめざす進路も

司法研究科(ロースクール) との一貫型教育を前提



大学院活性化

より良い社会の実現をめざして 国家(地方)公務員を志す

国家公務員による アクティブラーニング授業

法学研究科において高度専門 職業人をめざす進路も



√ 7-(1) 法学部の取組み→「学部教育改革施策」

2. 特修コース以外のコース制の再構築 ~教育から学習へのシフト~

従来の(想定)進路別のコース設計から、学修成果(到達目標)別のコース制に再構築

日々変化し続ける社会において、幅広い分野で活躍できる応用力のある人物の育成

公共政策コース (経済学部連携)

法政社会歴史コース

司法・ビジネスコース (法律学科のみ)

グローバル法政コース

3. ダブルチャレンジ制度の推進

インターナショナルプログラムの新設 ~法学・政治学国際交流セミナー~

各クラスにおいて特徴的な国際交流入門プログラムを展開(2021年度より3クラス開講)

【オンライン国際交流型】

くべセル大学(アメリカ)> 法律・政治トピックをテーマに 英語でのコミュニケーション

【オンライン国際交流型】

<ネルー大学(インド)> SDGs等の国際的課題について 国際比較研究

【融合プログラム(対面演習型)】

正規留学生と日本人学生が 演習形式での共同学習 授業時間外での交流も活性化

ハンズオン・ラーニング・プログラムの拡充(クラス増設) ~国内フィールドワーク演習C(公共政策)~

▶ 京都府与謝野町を舞台に、産官学連携での町おこし企画を立案・実行



。7-(1) **商学部の取組み**-「学部教育改革施策」

Society 5.0におけるビジネスパーソン育成のためのデジタル&グローバル教育の導入



グローバルで活躍することができる 能力の開発と必要な経験を積み、 ボーダーレスなビジョンを描くことができる

グローバル×ビジネス

学生一人ひとりがスタートアップCEO / 教員はそれをサポートするアクセラレーター

カリキュラム改革コンセプト

- 1. Project Based Learning科目の拡充
- 2. AI活用人材育成科目の導入
- 3.オンライン留学の開発と環境整備



7-(1) 商学部の取組み-「学部教育改革施策」

6つのコース(専門分野)に応じた"PBL科目"及び"オンライン国際交流科目"の設置

ビジネスプロジェクト:アカデミー×ビジネスの連携による「PBL(課題解決型学習)」

<2022年度開講ビジネスプロジェクト>

The second of th	
分野	テーマ
共通001	公認会計士・税理士実務業務詳解およびケーススタディ・プロジェクト
共通002	ビジネス&SDGs:ケーススタディ・プロジェクト
共通003	ビジネス・デザインの実践
共通004	ビジネス&税務:ケーススタディ・プロジェクト
経営001	企業におけるオンボーディングプログラムとキャリアデザイン
会計001	会計的な視点からのビジネスモデルの理解と経営計画演習
会計002	データ分析を通じた意思決定会計の実践演習
マーケティング 001	未来社会デザイン実践演習
マーケティング 002	スタートアップのマーケティング実践演習



オンライン・インターナショナル・ラーニング:海外の大学生とデジタルでつながるオンライン留学

く2022年度開講オンライン・インターナショナル・ラーニング>

分野	テーマ
会計001	英語で学ぶLEGO戦略会計
国際ビジネス001	未来社会デザイン実践演習





。7-(1) 経済学部の取組み-「学部教育改革施策」

課題解決型データ分析プログラム(案) (2023年度~)

社会活動への参画・体験を通じて発見した課題について、客観的エビデンスとしての調査結果やデータの分析によって、解決方法を探求・提案する力を身に付ける。

経済学



データ・サイエンス

PBL型データ分析授業

専任教員2名採用予定 指導体制を強化

経済学を現実経済に応用させ、社会課題を解決に導く人材の育成

<導入科目>

経済データ分析入門

- 日本のオープンデータを知る
- ・統計データの基本事項・読み方を学ぶ
- ・統計分析ソフトウェア「R」を知る

AI活用人材育成プログラム

<演習科目>

PBLデータ分析演習

- ・日本の経済的な課題を見つけ出し、 その要因と解決策をデータを用いて 実証する。
- ・国際・金融・財政・福祉・労働・産業・ 資源・環境・地域など多様な分 野から学びたい授業を選択

<応用・発展科目>

"R"によるデータ分析

- ・統計ソフトウェア「R」を用いたデータ 分析を基本とし、ハンズオン(実習)型授 業を提供する
- ・評価は、ある課題解決のための分析 を行うプログラムを作成させる ことで行う。

2.大学院教育

研究者と、社会から求められる 高度職業人を輩出する



😼 2-(1)「研究者の輩出」

若手研究者スタートアップ制度『特別任用助教』 1名採用(社会学部)

日本学術振興会の特別研究員制度の採用者(DC1、DC2、本学博士後期課程出身のPD)は、特別研究員期間終了後、本学における『特別任用助教』として3年間の雇用を保証する。なお、特別研究員の採用に至らなかったが審査において高い評価を受けた方にも資格を拡大し、23年度に向けて公募中

(目的)

- ①本学出身の研究者を数多く輩出する
- ②特別研究員期間終了後の雇用を保証することで大学院進学を促す

博士学位取得



3.研究

競争的環境により、 「世界トップレベルの研究」を創り出す



3-(1)「関西学院大学バイアウト制度」を創設

2023年度 運用開始

「関西学院大学バイアウト制度」

競争的研究費を獲得した研究代表者が担っている業務のうち、 <u>担当授業科目の代行</u>に係る経費について、 当該競争的研究費からの支出を可能とする制度

<対象>

研究費:国の競争的研究費のうち、各配分機関がバイアウト制度の適用を認めているもの

研究者:研究代表者としてバイアウト制度の対象となる競争的研究費(直接経費)の

採択期間合計額が総額500万円以上の専任教員(教授・准教授・助教・専任講師)

使 途:対象研究者が担当する授業科目の非常勤講師による授業代行費用

(非常勤講師給・出講手当・交通費)

※大学院科目(専門職大学院科目は除く)および所属部局以外の授業科目は対象外

※各学期週2時間(1コマ相当)を上限とする。

<u>バイアウト制度の利用により、確保された時間は、</u> 当該競争的研究費の研究プロジェクトの遂行にのみ充てられる。



3-(2) 研究創発の活性化

URA/産学連携CD によるサポート

- •外部資金募集情報の収集と特性を分析
- ・本学の研究者へのマッチング
- ・申請書の企画段階から申請手続をサポート

これまで申請されていなかった新規公的プロジェクトへの申請促進

総額約6,000万円

◆若手研究者支援ファンドの獲得 NEDO(新エネルギー・産業技術総合開発機構) 一産学連携が期待できる案件を全面サポート

採択者① 村上 慧 理学部准教授

「新規な構造を有する第4級アンモニウム塩の 合成手法の開発および化合物ライブラリーの構築」

採択者② 大屋 正義 工学部准教授

「液体水素の冷熱を活用した水素ガスタービン 高温超電導発電機の基礎開発」

採択者③ 中沢 寛光 教育技術主事

「電流場などの外部刺激が薬剤の経皮吸収に 与える影響の解析」

◆スタートアップ・キ゛ャップ。ファント゛プ。ロク゛ラムの獲得 JST(科学技術振興機構)

―インキュベーションと関連して起業を目指す 計画への支援プログラム

採択者① 山本 倫也 工学部教授

「ビッグデータ駆動型眼球運動トレーニング社会の 実現に向けたコンテンツ・プロトタイプ開発」

採択者② 澁田 一夫 工学部研究特別任期制教授

「心理統計にもとづく対象ごとの感性価値指標を 活用した感性評価サービスの開発」

採択者③ 長谷 智美 工学研究科M2

(田中裕久教授との共同実施)

「世界平和に向けた廃熱回生発電事業」

49

4.総合学園と一貫教育

建学の精神を共有し、 幹の太い総合学園を実現する



4-(4) WWL事業一"AI活用 for SDGs"

海外含む 連携校25校

高大連携プログラム

AI活用ワークショップ

WWL·SGH ×探究甲子園 WWL生徒交流会 WWL生徒国際会議

大学教授や学生が高校生らの発表を 評価・指導







グローバル探究A (AI活用)

<u>平和を構築するための</u> <u>AI活用技術を身につける</u>

・AI活用企業への訪問や 実際の開発実践等 グローバル探究B (ハンス・オンラーニンク゛)

平和や人権、エネルギー 問題等現場で学び、 当事者意識を育む

・広島・長崎や福島への訪問等

グローバル探究C (グローバルスタディ)

外国の高校生とつながり、 探究と実践を行う

・オンラインにて、地球温暖 化や貧困問題等解決の ためのプロジェクト実践







グローバル探究BASIC

- SDGsの概念や17のゴールを学ぶ。
- フィールドスタディを通じて、企業や自治体等社会的課題を理解する。
- 生徒一人一人のアクションの方向性を定める。



2.3年次

8.学校経営

ガバナンス改革を進め、 総合的マネジメントを実現する

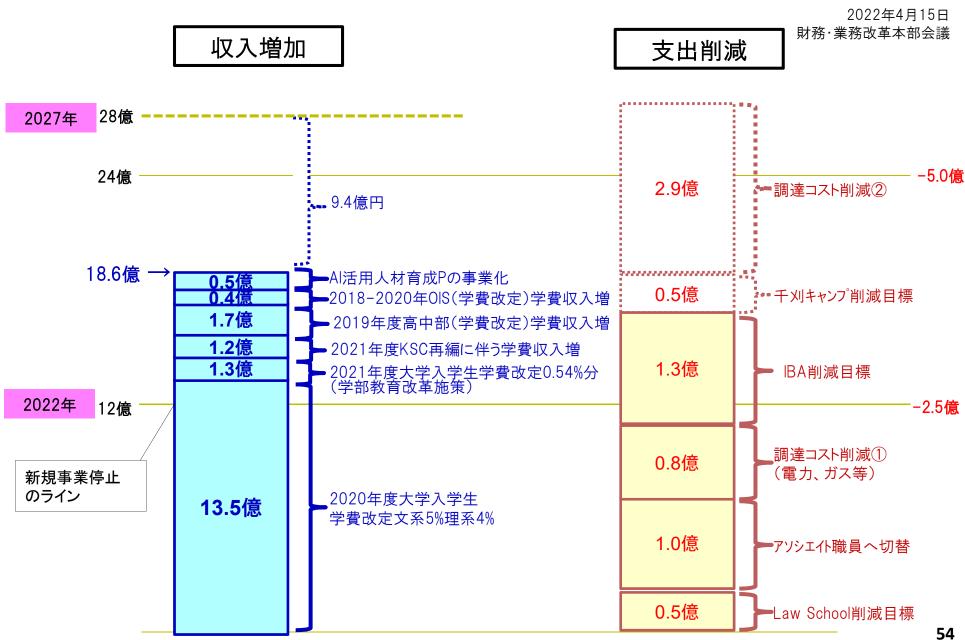


8-(3) 修正した財政計画(2022-2027年度)の概要

- 1 新規事業費用(経常費) 毎年2億円ずつを投入 (ただし2021年度に、さらに<u>4億円</u>を投入) (2027年には単年度で<mark>24</mark>億円)
- 建設費用 総額492億円で計画(ただしDX戦略に関して施設建設費が増加する可能性あり)
- 情報化費用【建設費用から全額移管】総額36億円で計画 (ただしDX戦略に伴い増加予定)
- 4 財務指標(ただしDX戦略に伴い、次年度見直し予定)
 - (1)フロー(事業活動収支差額比率): 6%以上(2027年度)=健全性 ※2039年度までに8%にする。
 - (2)ストック (実質支出超過額比率) : 50%未満 (2027年度) =安全性 ※実質支出超過額比率=(翌年度繰越支出超過額+借入金残高)÷事業活動収入
- 5 収入增·支出削減
 - (1)政策的な収入増加額は 28億円/年(2017年度比)
 - (2) 政策的な支出削減額は 5億円/年(2017年度比)
- 新規事業停止の条件 2022年までに以下の具体的な見通しが立たない場合は新規事業を停止
 - (1)(収入増)12.0億円/年
 - (2)(支出削減) 2.5億円/年



8-(4) 財源確保の進捗状況





8-(6) 人事計画(職員)

<職員>職員の能力向上を追求

教育・研究・マネジメントの質を向上させるため、職員が能力開発によって資質を高め、競争的な環境の中でその能力を最大に発揮することによって、組織としての遂行力を高める。テーマとして、能力開発、生産性の向上、事務組織の再編、人事諸制度の再構築などを検討する。

長期戦略の冊子より

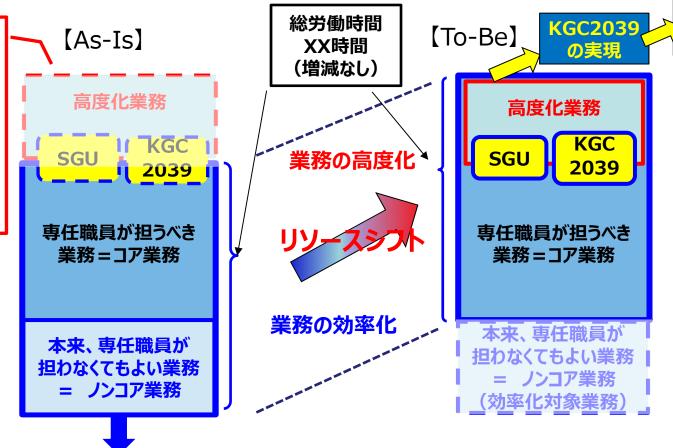
【人事施策の構造と各施策の関係性】 A. 方針策定 (2)計画:戦略策定 B.業務改革·働き方改革 (5)採用 (3)職務の再定義 (6)事務組織の改編 (4)生産性の向上 C.人づくり E.環境づくり D.仕組みづくり (7)人事諸制度 の再構築 (1)能力開発: (9)労働環境の 整備 人材育成 (8)非專任職員 評価制度の構築 F. 人件費政策 (10)人件費 (教員·職員共通)



👂 8-(4) 業務高度化に向けたリソースシフト

高度化業務へ人的資源のシフトを実現し、価値および競争力の向上を実現する

KGC2039の推進など新たな価値を創造する業務や、複雑で全学的な課題への取組など、専任職員が本来取り組まなければならないが取り組めていない業務



 外部
 デジタ ル化
 システ ム化
 RPA
 簡素化 廃止
 標準 集約

 化
 ル化
 ム化

コンサルタントの支援を受けて、多様な方法によって専任職員の業務を効率化し、余剰を生み出す。(費用がかかることが前提)

KGの ブランド・競争

力の向上



8-(7) 総合建設計画(戦略インフラ部分)

- ①大学院2号館改修計画
- ②仁川五ケ山町建設計画
- ③新第2教授研究館A棟建設計画(北西部新築)
- ④第4別館改修計画
- ⑤新第2教授研究館B棟建設計画(全学共用棟建替)
- ⑥正門周辺安全対策計画
- ⑦新学生サービスセンター建設計画
- ⑧G号館・大学院1号館改修計画

【2019年完了】

【2020年完了】

【2021年完了】

【2022年】

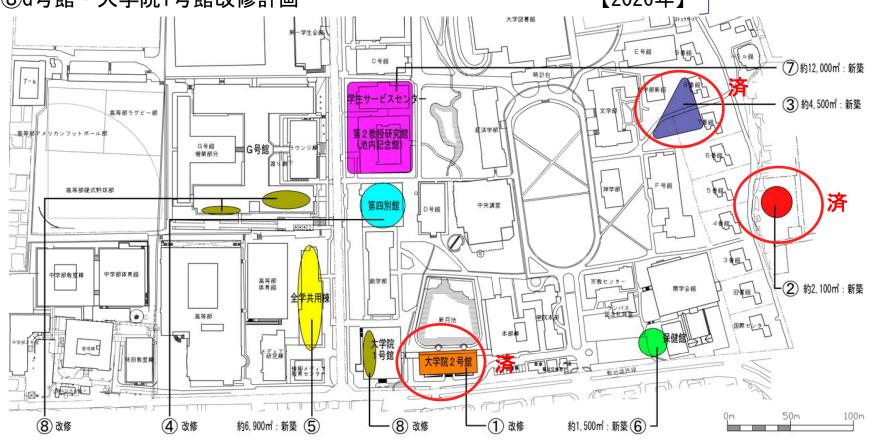
【2023年】

【2024年】

【2025年】

【2026年】

実施年は 予定





🚜 8-(8) 新ポータルサイトの機能概要

2021 年度

学生・教職員向け新ポータルサイト 『KWiC』 の2021年8月より本番稼働。 お知らせ情報の一元化、Webによる各種申請などが実現。



Point 履修登録、LUNA、メール等すべての情報の玄関口に
Point 体講連絡、重要なお知らせ等はLINE通知も可能に
Point FAQ機能(よくある質問)で、窓口に行かなくても入手できる情報も

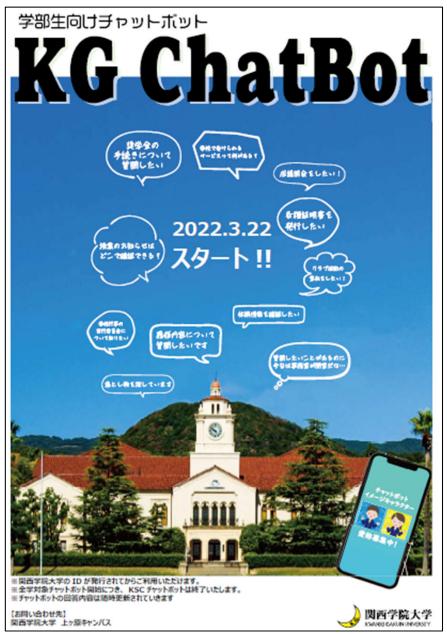
スマートフォン画面







8-(4) 学部生向けチャットボットの導入



KSCでの先行実施(2021年9月~)成果を踏まえ、

<u>2022年3月、学生の質問に自動応答する</u> チャットボットを全学展開

<学生>

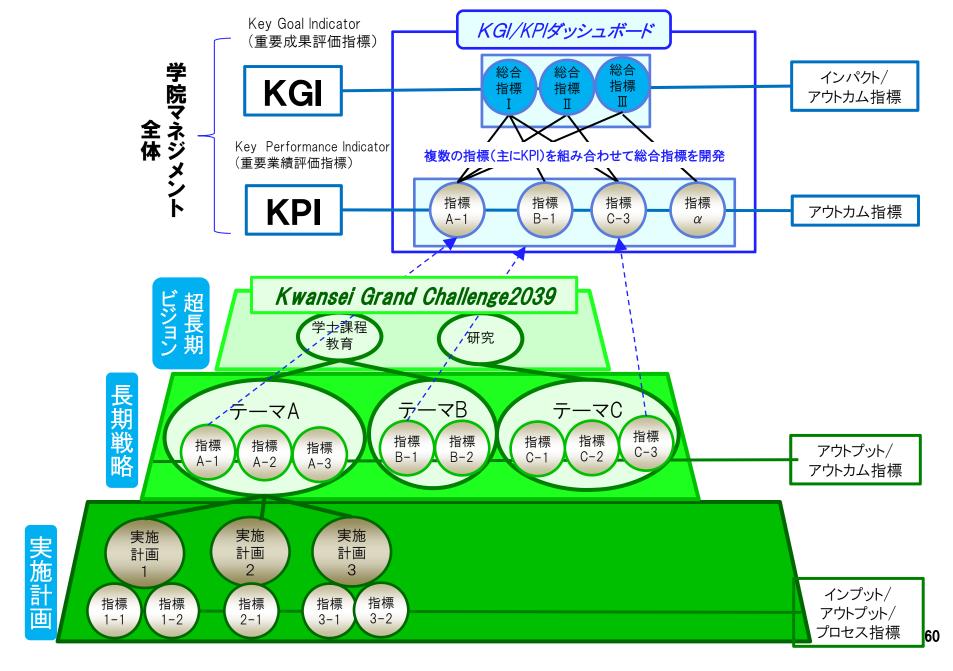
- > スマホ利用による利便性向上
- > フリーワード入力やFAQ整理で検索性向上
- ▶ 24時間、自動回答による利便性向上

<職員>

- ▶ デジタル化・自動化による窓口業務の効率化
- ▶ 利用データ分析による回答の精度向上
- > 部署の垣根を越えた全学体制の構築

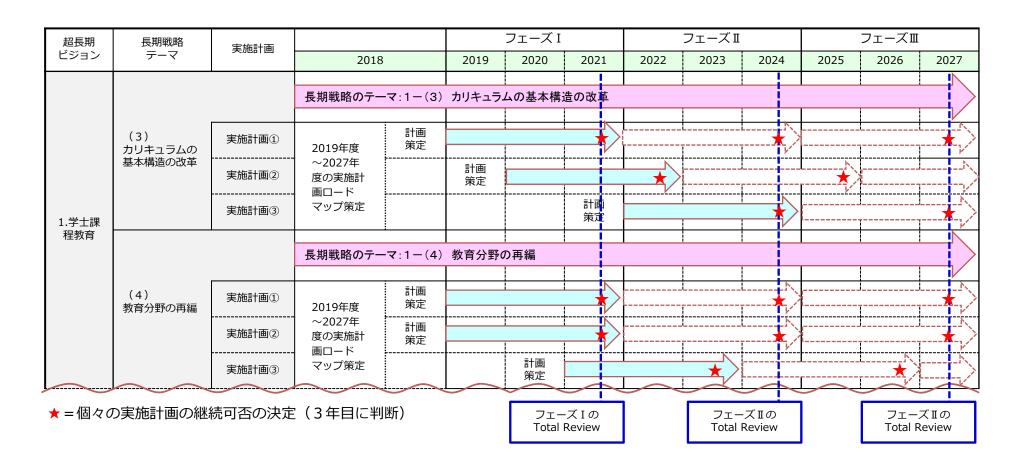


KGC2039の指標とKGI/KPIの関係





→ 8-(10) 中期総合経営計画のローリング



一つ一つの実施計画は継続を前提としながらも3年目で継続 の可否を定める。

長期戦略全体は3年のフェーズごとに見直しを実施する。



8-(12) SDGs入門科目の設置・学生組織結成



西宮上ケ原 2021年度より キャンパス SDGs入門科目「SDGsスタディーズ 入門」を全学開講

21年度履修者 688人

神戸三田 2021年度より 「SDGs実践入門」を開講し、KSC 総合科目としてKSC5学部に提供

21年度履修者 283人

KG SDGsキャンパスサポーター (2021年度結成)

2022年4月現在 参加学生19名

「SDGsに関心のある関学生同士でつながって取り組みを加速させたい」

SDGsに関心の高い学生が集まり、学生主体の活動や取り組みを大学と連携して展開・推進する。

今後、企業や自治体等との連携による活動展開も計画



ご清聴ありがとうございました。

